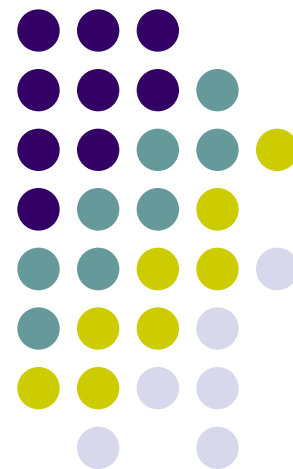


2015年2月3日シンポジウム『地域包括ケアシステムの構築と住民参加』

# 地域包括ケアの担い手を考える

労働政策研究・研修機構研究員  
堀田聡子 (hotta@mcw-forum.or.jp)



# ケアをとりまくいくつかの変化



- 人口構成の変化（高齢化、少子化）
- 疾患構造の変化（複数疾病、継続発症、ケアサイクル）
- 健康概念の変化
- 支援観の変化（医療モデルから生活モデルへ、ICF）
- ケア・サポートの断片化・連続性の欠如
- （全体・無駄な）費用の肥大化

生活の質（個人・家族・地域の物語）、持続可能性

# 地域包括ケアとは:2つのコンセプト



## 地域を基盤とするケア (community-based care)

公衆衛生アプローチに立脚し、地域の健康上のニーズ、健康に関する信念や社会的価値観にあわせ、地域社会による参画を保証しながら構築されるケア [Plochg and Klazinga (2002)]

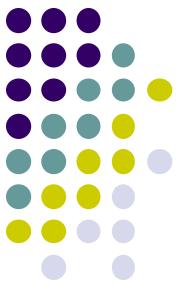


## 統合ケア (integrated care)

診断・治療・ケア・リハビリテーション・健康増進に関連するサービスの投入・分配・管理と組織をまとめる概念 [Gröne and Garcia-Barbero (2001)]

地域における最適を地域が自ら選ぶことが重要

# ケアの担い手をめぐって



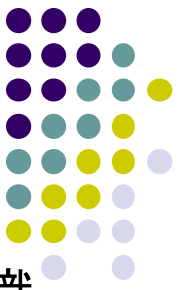
ここでケアの担い手: フォーマル／インフォーマル、有償／無償(二分化できなくなっているが)、対象の別を問わず広くケアを行う者

## 1. まずインフォーマルケアラーへの着目

- アメリカ・スウェーデン・イギリス等の研究者によるケア・ケアラーの歴史への着目(1920年代頃~)と政策対応を要する事柄としての明確な位置づけ
  - ケアラー団体の運動
- ケアラー支援の制度化(1960年代後半~萌芽的に)
- ケアラーを視野にいれる政策領域の広がり
  - 近年EU等では社会的排除との関連からケアラーを位置づけ  
ケアラーの社会的保護と社会的包摂をはかる政策検討

[Room et al.(1992),European Commission(2008)等]

# (参考)Eurocarersにおける ケアラー支援にかかる10の原則



- ① ケアラー認識: コミュニティケアにおける中心的役割を果たすという認識、この認識がケアラーに影響を及ぼす全ての政策に反映
- ② 社会的包摂: ケアラーが社会生活を享受する権利
- ③ 機会平等: ケアラーは生活の全側面において平等な機会を持つべき
- ④ 選択: ケアラーになりたいか/負担の程度を選択、ケアを必要とする人はケアラーを選択する権利を持つべき
- ⑤ 情報: ケアラーの経験・局面に応じた情報、助言、アドボカシー、訓練
- ⑥ 支援: 経済、実践、精神的支援と活用可能で手頃なフォーマルケアへのアクセス
- ⑦ ケアから離れる: ケアラー・ケアを必要とする人双方にニーズに応じたレスパイトケア等
- ⑧ ケアと仕事の両立: ケアと有給雇用両立の可能性(労働政策の前提)
- ⑨ ケアラーの健康増進
- ⑩ 経済保障: ケアの結果としての貧困化を避ける



## 2. ケアワーカーへの注目

- 欧米で高齢・障がいのみならず保育も包摂するケアワーカーにかかる研究活発化(1980年代以降)
  - 多様なケアワークの射程、概念構造、実践の精緻な把握、福祉レジームと結びつけた配置・雇用、教育・コンピテンスの検討[Moss and Cameron(2002)等]
- とりわけ長期ケアに携わるケアワーカーの確保定着が各国の政策課題に(2000年代以降)
  - 規模、属性、確保定着策にかかる国際比較の蓄積[Fujisawa and Colombo(2009)等]

## 3. 多様化するケア提供主体の把握と支援

- フォーマル/インフォーマル、有償/無償といった二分法を超え多様化するケア提供主体の概念整理[Ungerson(1997)、Pfau-Effinger and Geissler eds.[2005)等]
- 家族・世帯、市場、国家、コミュニティ・ボランティア：  
ケアダイヤモンドによる供給バランスの把握[Razavi(2007)]
- とりわけ長期ケアについてはケアの担い手の全体像の実態把握と充実に向けた方策展開[Colombo et al.[2011]]

## 4. ケアの担い手(主体)としての患者・利用者

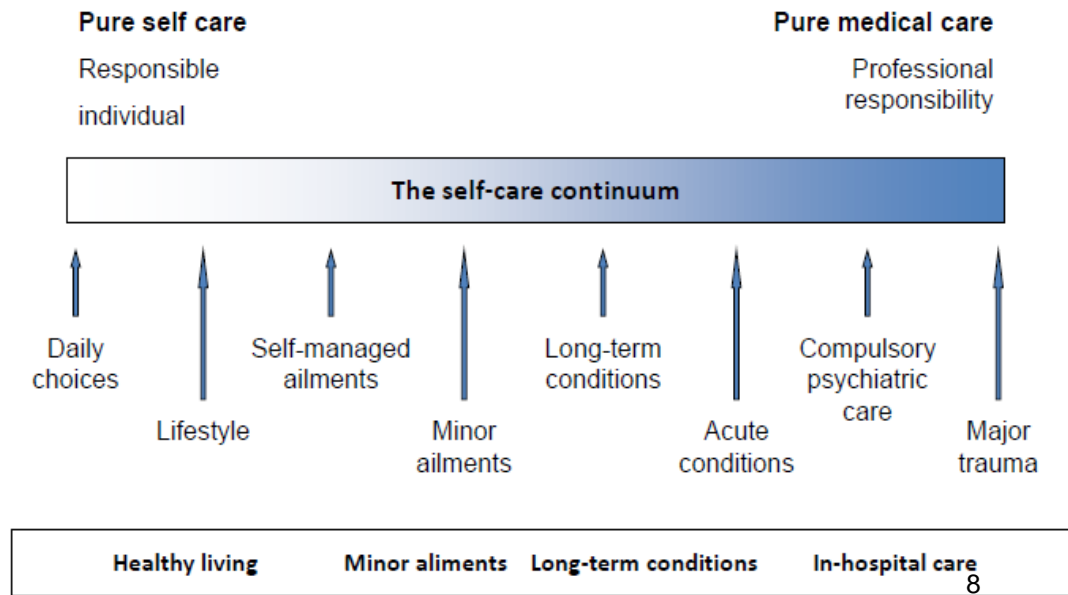
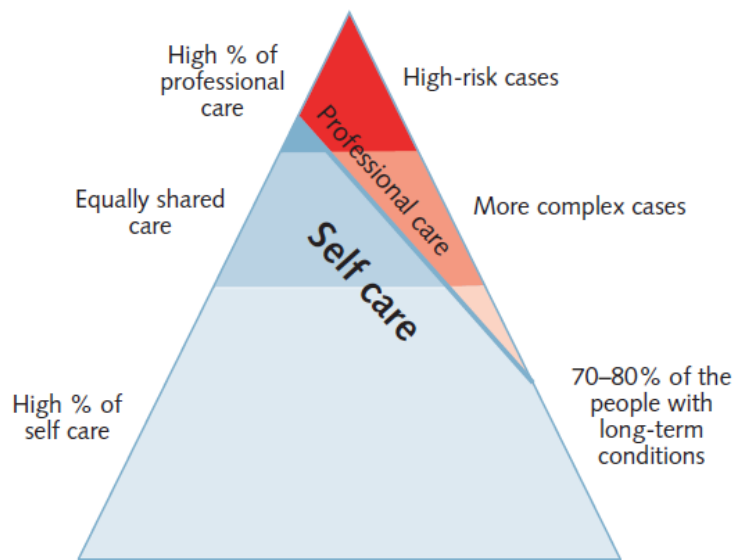


- 1950年代の「患者役割論」〔Parsons(1951)〕: 社会的役割の免除、医療者の指示に従い援助を受け入れる患者  
～「病院の世紀」〔猪飼(2010)〕における専門職のイニシアティブに基づく治療の「受け手」としての患者像
  - 高齢化の進展のなかで慢性疾患患者が急増するにつれ患者像が転換: 先を見越した行動をとるケアチームと生産的相互関係を結ぶ「情報とスキルと自信を持つ活性化された患者」像へ〔Wagner et al.(1999,2001)等〕
  - セルフマネジメントを高める施策の展開、その効果に関する研究〔Lorig et al.(1999), Expert Patients Programme Community Interest Company(2010)等〕
    - 米・スタンフォード大学で1980年代に開始されたChronic Disease Self Management Programme (世界20カ国で展開)
    - 英・保健省とNHSが主導するExpert Patient Programme 〔松繁(2010)〕
- :「LayExpert(素人専門家)」という概念
- ただしもちろん依然として医療者に従属的でありたい患者も多い〔Wiles and Higgins(1996),Gabe et al.(2003)〕

# (参考) NHS改革とセルフケア



- ケアを必要とする多くの人にとってセルフケアが重要、セルフケアはQol及び患者満足度↑医療資源節減につながる→セルフケア振興が不可欠 [イギリス保健省(2005)『セルフケア白書』]
- 「self-care continuum」という概念を用いて、セルフケアと専門職ケアの配分や焦点が心身状況に応じて変化していくことを示すとともに、セルフケアサポートのあり方を整理する。



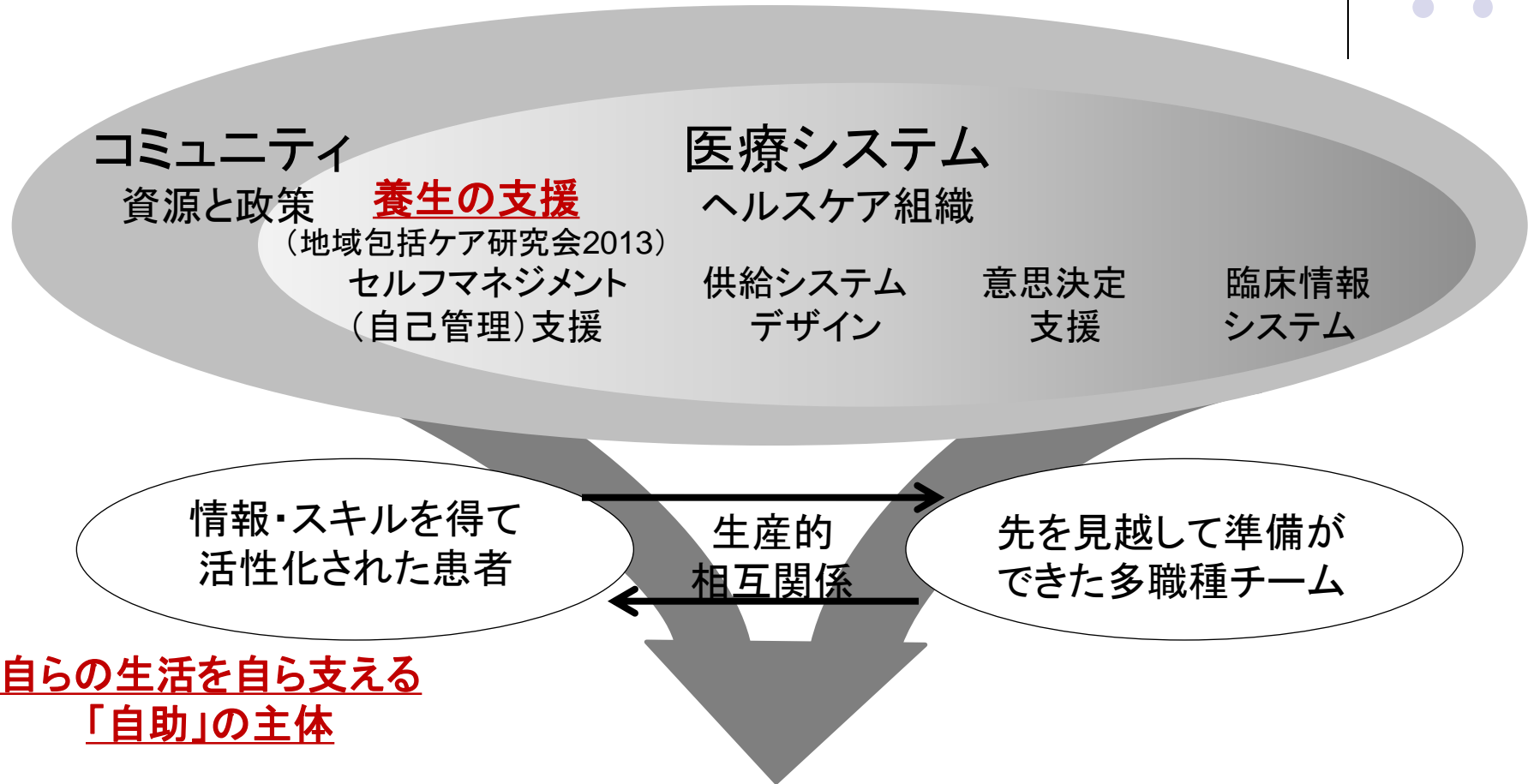
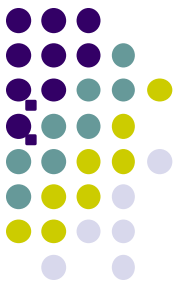
出所: Department of Health (2006) Our health, our care, our say: a new direction for community services

出所: <http://www.selfcareforum.org/>



# Wagnerらの慢性疾患ケアモデル(CCM)

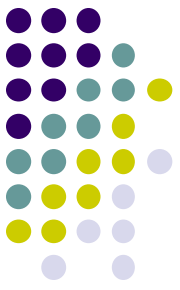
## 「客体」から「主体」へ/患者－専門職関係を越えて



**自らの生活を自ら支える**  
**「自助」の主体**

**本人・家族の選択と心構え**    **機能・臨床的アウトカムの向上**  
(地域包括ケア研究会2012)

# 慢性疾患ケアのための コアコンピタンス



## 1. 患者中心ケア

- 効果的なコミュニケーション
- 健康行動変容のサポート
- セルフマネジメント支援
- プロアクティブアプローチ

## 2. 協働 (Partnering)

- 患者と
- 他の提供者と
- コミュニティと

## 3. 質向上

- プロセス・成果の測定
- 学習→変化
- エビデンスを実践に反映

## 4. ICT

- 患者の登録
- パートナーとのコミュニケーション
- コンピュータ技術の活用

## 5. 公衆衛生視点

- Population-based care
- 予防重視とケアの連続を横断する働き
- プライマリケア主導のシステム

出所: WHO (2005)、Nolte and McKee (2008)

# プライマリ・ケアの統合的機能 に基づく統合ケアの概念枠組み

